

# 防災・減災 ソフト対策

## 大規模水害に備えて

### ● 遠賀川圏域大規模氾濫減災協議会の取組

平成27年9月の関東・東北豪雨災害を受け、「水防災意識社会再構築ビジョン」として、全国全ての直轄河川とその沿岸市町村（109水系、730市町村）において、水防災意識社会を再構築する取組を行っています。

遠賀川流域では、流域の21市町村と福岡県および国が共同して、平成28年5月23日に「遠賀川水防災意識社会構築推進協議会」を設立しています。これまでに経験したことのない大規模な洪水の発生に備えた減災・防災対策の充実を図るため、流域の防災関係機関が一体となり、ハード対策・ソフト対策を計画的に推進するための「減災に係る取組方針」を平成28年8月4日にとりまとめ、取組の推進を行っています。

その後、平成29年6月の水防法の改定を踏まえ、取組を圏域内の県管理河川まで拡大し、「遠賀川圏域大規模減災協議会」と組織を改定しています。

### 遠賀川圏域大規模氾濫減災協議会の構成員



### ■目標達成に向けた3本柱の取組（ソフト対策）

防災・減災の目標を達成するために、洪水を河川内で安全に流すなどのハード対策に加え、遠賀川流域が一体となった防災・減災対策として、以下の三本柱の取組（ソフト対策）を推進します。

①遠賀川水防災学習の普及による水防災文化の醸成

②関係機関の連携による避難、水防、復旧体制の強化

③避難行動につながる確実かつ住民目線のわかりやすい情報の提供

## 子どもたちの「生きる力」と「郷土を愛する心」をはぐくむために

### ● 教育機関と連携した水防災教育を進めています (遠賀川水防災学習プログラム)

水防災学習プログラムでは、遠賀川流域の将来を担う子どもたちに、水防災を容易に理解してもらうとともに、ふるさとへの愛着を育んでもらうため、遠賀川を題材にした教材（小学校の社会科単元「自然災害にそなえるまちづくり」、小単元「自然災害とともに生きる」・理科単元「流れる水のはたらき」対象。）を作成し、流域内の小学校への普及に取り組んでいます。

### ○先生が行う授業を支援

授業の進め方は教科書どおりに、教科書で他地域が題材になっている教材を、遠賀川を題材にした教材に置き換えました。

